

様式第2号（第8条関係）

審議会等会議録

会議の名称	令和7年度第2回 加須市環境審議会
開催日時	令和7年11月27日（木） 午後1時00分から午後2時30分まで
開催場所	加須市役所5階 505会議室
議長氏名	浅野和生
出席委員	浅野和生、牛腸宏、前田博之、町田彰、鈴木良子 鳥海靖久、佐藤任司、蓮沼弘行、八戸昭一、稲子谷昂子
欠席委員	青木正枝、吉村友也、小山郁子、若山敬、木村眞司
会議次第	1 開 会 2 会長あいさつ 3 市長あいさつ 4 議 事 （1）第2次加須市環境基本計画改訂版の策定について （2）その他 5 閉 会
会議資料の名称	【資料1】「第2次加須市環境基本計画改訂版」策定のポイント 【資料2】第2次計画と第2次計画改訂版 体系図の比較（案） 【資料3】第2次加須市環境基本計画－改訂版－（素案）
会議の公開又は非公開の別	公開
非公開の理由	
傍聴者の数	なし
説明者の職・氏名	環境安全部環境政策課長 前田辰男
事務局職員職・氏名	環境安全部長：増田浩之、環境政策課長：前田辰男 同課主幹：山崎幸男、同課主査：阿久津健介 資源リサイクル課主幹：山下彰 農業振興課長：野中裕

	都市計画課長：平渡一郎 道路公園課長：大熊治義 治水課長：江森浩之 下水道課長：小川修一 学校教育課主幹：菅谷朋世 騎西総合支所地域振興課長：正能光 北川辺総合支所地域振興課長：新井弘樹 大和根総合支所地域振興課長：阿部浩明
会議録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点記録 <input type="checkbox"/> 全文記録
その他必要な事項	なし

様式第3号（第8条関係）

発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
事務局 (山崎環境政策課主幹)	1 開 会
	出席委員
事務局 (山崎環境政策課主幹)	半数以上の委員が出席のため、加須市環境審議会規則第3条の規定による会議開催の定足数を満たしていることを報告
浅野会長	2 会長あいさつ
角田市長	3 市長あいさつ
発言者	会議の内容(発言内容、審議経過、決定事項等)
浅野会長 (議長)	4 議 事
事務局 (前田環境政策課長)	(1) 第2次加須市環境基本計画改訂版の策定について(説明)
	質疑応答
浅野会長	資料2の「3-1-(3)環境にやさしい移動手段の普及促進」について、どのような変更があったのか。
事務局 (前田環境政策課長)	「自転車利用の促進」と「環境にやさしい自動車等の促進」を統合し、化石エネルギーに頼らない多様な移動手段の選択を推進するという観点から、「スマートムーブ」という包括的な施策としてまとめた。
町田委員	70ページの鳥獣対策について、アライグマやイノシシの駆除は重要である。一方で、駆除だけでは個体数の抑制に限界があるため、棲み家や隠れ家になる場所を減らすなど生息環境の改善を併せて進めなければ減少しないと思う。
事務局 (前田環境政策課長)	アライグマ対策については、市で捕獲従事者養成講座を開催し、毎年50人強増加している。また、捕獲器の購入費補助を設けるなど、市民と一体となった取組も進めている。イノシシ対策については、多くが渡良瀬遊水地から出てきているものとされているため、近隣4市2町、さらには4県とも連携し、国に下草の刈払いを実施してもらうなど、生息しにくい環境づくりに向けて連携して取り組んでいる。

町田委員	<p>利根川の河川敷や土手については、草刈りがほとんど行われていない区間も見受けられる。民地側の土手や田んぼに侵入したような痕跡もあり、被害の拡大が懸念される。世間のクマ対応などを見ている、人的被害が発生して初めて国が本格的に動く印象である。市の職員がイノシシ対応で懸命に動いていることは理解しているが、地域全体の状況を踏まえると、現時点では対策がまだ十分とは言えない。</p>
事務局 (前田環境政策課長)	<p>イノシシ対策については、先月、環境省・国土交通省・農林水産省に対し、4市2町の首長が要望活動を実施した。あわせて、渡良瀬遊水地利活用協議会や捕獲連携協議会などを通じ、関係市町村等と連携しながら対応している。市の取組としては、昨年9月の補正予算で箱ワナ4基、カメラ5基を購入するなど対策を強化し、捕獲実績は昨年度15頭、今年度はこれまでに25頭となっている。さらに、今年9月の補正予算では捕獲目標を50頭に設定し、取組を一層強化している。今後も、猟友会等の関係機関と連携し、継続して対策に取り組んでいく。</p>
浅野会長	<p>駆除対策や被害防止については70ページに記載がある一方で、害獣等の生息環境に対する対策に関する記載が見当たらない。検討の上、関連する施策がある場合は追記していただきたい。</p>
事務局 (前田環境政策課長)	<p>検討する。</p>
事務局 (増田環境安全部長)	<p>アライグマについては、防除対策の中に生息環境への対策も含まれるものとして読み込んでいただきたい。一方、イノシシについては、現行の記載からは生息環境への対策が文言上読み取りにくいいため、追記を検討したい。渡良瀬遊水地等に対して市としてどこまで前面に言及できるかという点もあることから、記載の表現ぶりについては整理の上、検討する。</p>
前田委員	<p>66ページの「2-1-(1)-① ネイチャーポジティブの推進」について、具体的に何をどのように進めるのかが読み取れない。ネイチャーポジティブについては、端的には、自然環境を有する土地が失われないようにし、さらに増やしていくという方向性であるため、「土地をどうしていくのか」が読み取れる内容である必要がある。また、土地に関して役割を担うのは市民や事業者だけではなく、市も公共事業を進める立場として、施策に位置付ける必要がある。72ページの環境指標を見ると「人数」に関する指標のみであり、人数が増えたことを</p>

	<p>もってネイチャーポジティブが進展したと説明することは難しい。例えば、保全のための指定箇所数や面積を増やす、加須市の土地利用の特徴である農地について環境配慮型農業の面積を拡大するなど、土地に関する指標を設定しなければ、残り5年という期間で目標達成に向かうのは困難ではないかと考える。指標を見直すためには、上位計画である総合振興計画にネイチャーポジティブにつながる施策・指標を位置付け、その整合を図る形で環境基本計画に反映させることが不可欠ではないか。</p>
<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>ネイチャーポジティブについては、自然再興の側面に着目すると、本市の特徴である水辺環境や自然環境を、引き続き保全・活用していくことで推進を図りたいと考えている。これらの保全には地域団体の関わりが大きいのが、団体関係者の高齢化等により近年活動の担い手が弱まっている面もあるため、支援を進めていきたい。また、行政についても、市民・事業者だけでなく公共事業等に関わる取組を位置付ける趣旨の記載があるため、全庁的に協力しながら課題を共有し、改善可能な点は改善していきたい。土地に関しては、今後、農業従事者の減少や高齢化が進む中で、耕作放棄地の増加などの課題が想定される。現時点で施策として整理できていない部分については、今後の課題として検討していきたい。環境指標については、総合振興計画との整合を図った上で位置付けているものと理解いただきたい。</p>
<p>前田委員</p>	<p>総合振興計画では、現状、土地に関する指標が入っていないのかもしれないが、今年度は総合振興計画の見直しのタイミングであり、この機会を逃すと、今後指標を盛り込む機会はないと思う。加須市において自然環境が減少しているという認識は、現状・課題の記載にも示されているが、土地に関する目標を何らか設定しなければ、ネイチャーポジティブという言葉だけになってしまう。土地に関する目標や指標の設定について、改めて検討していただきたい。</p>
<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>総合振興計画との関連があるという点については、ご指摘のとおりである。本日の会議での意見を踏まえ、変更が可能かどうかも含めて担当課と検討する。</p>
<p>稲子谷委員</p>	<p>区域施策編との関連性について、本計画の中にどのような形で位置付けられ、具体的にどのように反映されているのか。推進体制について、ゼロカーボンシティ推進協議会と協議・報告を行う相互の関係性を構築しているとのことだが、本計画についても協議会と共有し、意見を聴取することを想定しているのか。</p>

<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>区域施策編との関連性については、区域施策編の施策体系に基づき本計画の見直しを行った。具体的には、51 ページに示す基本目標Ⅲ「地球にやさしいまちをつくる」の施策として、(1)から(5)までを掲げている。今後は、これら各施策の下に個別事業を位置付ける構成としており、当該部分を含めて区域施策編との整合を図っている。ゼロカーボンシティ推進協議会については、会議終了後、委員へ資料を送付し、意見をいただく予定である。</p>
<p>稲子谷委員</p>	<p>環境基本計画では複数の環境指標を掲載しているが、こうした指標は区域施策編にも掲載しているのか。それとも、指標の設定・管理は環境基本計画で行う整理となっているのか。</p>
<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>現行の区域施策編は、指標を設定していない計画となっている。今後、見直しの機会に合わせて、指標の設定について検討する。一方で、現時点で可能な範囲として、環境基本計画の進捗管理に用いている別資料があり、その中で進捗を測っている取組のうち、区域施策編と紐づけ可能なものについては、区域施策編における数値目標と同様の形で整理できるため、対応可能な範囲で、取組状況や評価の確認を行っている。また、ゼロカーボンシティ推進協議会においても、各委員から指標の設定方法等に関する意見を伺っている。</p>
<p>八戸委員</p>	<p>84-85 ページについて、①と②が重複しているため、削除していただきたい。70 ページの②「クビアカツヤカミキリの防除対策の推進」について、「環境科学国際センターと連携して」とあるが、センター内には埼玉県生物多様性センターが併設されている。気候変動適応センターと同様の位置づけで用いるのであれば、表現を「環境科学国際センター」ではなく、「埼玉県生物多様性センター」とした方が記載の並びとして適切である。28 ページのトピックスについて、環境科学国際センターの下に「埼玉県気候変動適応センター」を取り上げているため、同様に、その下に埼玉県生物多様性センターについても併記した方がよい。</p>
<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>ご指摘のとおり、内容を確認の上、見直し・修正する。</p>
<p>牛腸委員</p>	<p>資料 13 ページの前期計画の評価では、113 項目の成果指標のうち、評価結果を踏まえて 26 項目が「改善が必要」とされているが、この評価結果を受けて、後期計画では 26 項目は改善されているのか。資料 14 ページに評価結果の一覧表が掲載されているが、ここで示されている内容以外に、より詳細な</p>

	<p>評価結果をまとめた資料はあるのか。表紙に地域気候変動適応計画と記載されているが、地域気候変動適応計画に関する説明は、17ページの記載が該当箇所という理解でよいか。他にも該当する説明箇所があるのか。</p>
<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>達成評価については、第1回審議会において、本市の環境に関する取組や施策について委員の皆様からご意見をいただいた。その中で、評価区分のうち「やや遅れ」と「大幅遅れ」を合算すると、該当が26項目となる。前回いただいたご指摘として、指標自体の見直しが必要ではないか、また目標数値の見直しが必要ではないかといった意見があったため、関係課と共有した上で、今後、見直しを図っていく。また、今回の計画運用にあたっては、基本的には「やや遅れ」や「大幅遅れ」が生じないように、着実に進めていきたい。加えて、新規の取組など、新たに施策として位置付けた内容もあることから、それに紐づく個別事業も今後増えていく見込みである。これに伴い、事業体系についても、必要に応じて見直しが必要になる。地域気候変動適応計画については、法令上および一般的な整理として、表題のとおり、環境基本計画に包含されるものとして位置付けている。具体的な内容としては、基本目標Ⅲにおける気候変動に関する部分が該当し、84ページの「3-1-(5)」が、地域気候変動適応計画の詳細に当たる箇所となる。計画全体というよりも、該当箇所に内容を盛り込む形で構成している。</p>
<p>浅野会長</p>	<p>指標や目標値等の見直しは、来年3月までに行い、その結果を本計画に反映するという理解でよろしいか。</p>
<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>本計画そのものについては、対外的には既に反映済みという整理になっている。今後は、より細かな進捗管理を行うために、指標の数値や指標の設定方法などについて、必要に応じて見直しを進めていきたい。</p>
<p>牛腸委員</p>	<p>指標の数値や指標の設定方法などの詳細は本計画には記載せず、別途、進捗管理のための資料等で整理・運用していくという理解でよろしいか。</p>
<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>ご認識のとおりである。</p>

<p>事務局 (前田環境政策課長)</p>	<p>(2) その他</p> <p>今後のスケジュールについては事前にご案内しているとお りだが、意見書の提出期限は12月10日までとなる。本日の 会議を踏まえ、追加でご意見等がありましたら、改めて事務 局までお寄せいただきたい。</p> <p>その後、パブリックコメントを実施し、2月18日に第3回 審議会を開催する予定。第3回審議会では、諮問という形で ご協力をお願いできればと考えている。</p>
<p>事務局 (山崎環境政策課主幹)</p>	<p>5 閉 会</p>
<p>会議の内容に相違ないことを証するため、ここに署名します。</p> <p>令和7年12月16日</p> <p>署名 <u> 浅野和生 </u></p>	